

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1174300390
法人名	医療法人社団 清心会
事業所名	しゃくなげ荘
所在地	〒367-0047 埼玉県本庄市前原2-2-3 (電話) 0495-24-5215

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(平成20年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	4人, 非常勤 17人, 常勤換算 11.3人

(2) 建物概要

建物構造	平屋木造造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	6,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300円				

(4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.7 歳	最低	55 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水クリニック、上武病院、飯塚歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

しゃくなげ荘は、静かな住宅地の一角にあり、暖かな日差しに建物全体がやさしく包みこまれている。ホーム内の共有のスペースもゆったりとした温かみのある家庭的な雰囲気、季節感も採り入れられた空間となっている。理事長は心療内科医であり、認知症専門医として週に1回、グループホームを往診している。また、介護職員として勤務していた職員が、今年、看護師の資格を取得し、“介護と看護”を活かすケアを目指して日々努力している。しゃくなげ荘は、医療のバックアップ体制を整備しながら、看取りのケアにも力を入れているグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では要改善点がなかったため、該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については、管理者が職員に目的を説明し、全員で自己評価票を作成している。職員からも日頃のケアを見直す機会になった等の意見が聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、行政、利用者、家族代表、民生委員、地区役員、ホーム関係者の参加のもと近況報告等が行われ、会議の中で出された意見を参考にしながら、サービスの向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、手紙による行事の報告や利用者一人ひとりの日々の生活の様子を写真に撮り郵送している。家族とも常に話しやすい関係を築いており、面会時には利用者の様子等を伝えて意見を聞き、変化や問題が生じた際も速やかに連絡をして対応に努めている。また、意見箱を設置し、直接運営者に意見が届くシステムをとっており、意見や苦情があった場合には、管理者に報告をして職員間で話し合い対策を検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会主催の夏祭りや秋祭りに積極的に参加し、地域との交流の機会を大切にしている。また、地域の方が、家庭菜園で大切に育てた野菜などを持ってきてくれたり、ホーム内の花の世話などを手伝ってくれるなど、地域住民との相互関係が築かれている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念及び高齢者福祉の三原則(自己決定・自己資源の活用・生活の継続)を基本としたホーム独自の理念や目標を具体化し掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回開催している職員会議において、理念及び基本方針を再確認するとともに、職員一人ひとりが理念に対する自覚を持ち、日々のケアの中に活かしていけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の夏祭りや秋祭りに積極的に参加し、地域との交流の機会を大切にしている。また、地域の方が、家庭菜園で育てた野菜などを持ってきてくれたり、ホーム内の花の世話を手伝ってくれるなど、地域住民との相互関係も築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果をカンファレンスで報告し、良かったところは更に向上させ、課題については話し合い改善に向け取り組んでいる。また、今回の自己評価については、管理者が職員に目的を説明し、全員で評価票を作成することで、日頃のケアを見直す機会になっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政、利用者、家族代表、民生委員、地区役員、ホーム関係者の参加により開催されており、近況や行事等の報告が行われている。会議の中で出た意見は参考にし、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課等とも頻繁に連絡を取り合っており、徘徊での危険防止等についての相談や意見交換を行い、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。また、市からの協力事業として、民生委員の研修や小学生の社会科教育の場所としても提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回は、日常生活の様子などをホーム便りに載せて家族に報告をしている。また、面会時や電話での報告など利用者一人ひとりの事情に合わせて行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設けるほか、意見箱を設置し、家族からの意見や要望を聞くように努めている。また、出された意見などには速やかに対応し、状況に応じて返答している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職時には、他の職員への引き継ぎを行い、サービスの質が低下しないように努力している。また、利用者が馴染みの職員によるサービスを常に受けられるように、管理者は勤務体制等を考え配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加させ、必ず伝達講習会を行い、職員間の知識・技術の共有化を図るようにしている。また、管理者が講師となり毎月研修会を実施している。さらに、介護福祉士に看護師資格取得の配慮をする等職員を育てる取り組みに熱意をもって取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される研修会にはできるだけ参加しており、同業者との交流に努めるとともに情報交換を行い、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、職員が自宅を訪問したり、家族と共に見学や体験利用も実施し、雰囲気馴染めるようにしている。体験宿泊や併設事業所の利用を経ての入居に至る場合もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者のこれまでの生活歴(生活スタイル)を大切に、その継続性を持たせるための支援に努め、その中でお互いに学び、支えあう関係づくりを目指している。</p>		
:ec@hpe					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族からの希望や身体状況を把握し、それを基にできるだけ本人の自己決定を尊重しながら柔軟な対応に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の希望を取り入れ、職員や計画作成担当者がカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。作成した介護計画については、本人や家族にも確認してもらうようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状態や状況の変化に合わせて、そのつど見直しを行い修正している。また、定期的なカンファレンスでの検討会も行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設を利用し、デイサービスやリハビリなどの機能を有効活用している。また、家族の要望に応じて通院支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き、かかりつけ医への受診や通院介助など希望にそのような支援を行っている。眼科については往診診療をしてもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム内の看護師を中心に「ターミナルケア対応指針」を作成している。家族とは、早期からターミナルケアについての相談を行っており、緩和医療と看取りにおけるケアの質を高める努力をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人記録などは、事務所内の鍵の掛かる棚に保管されている。利用者への声掛けなども職員研修時に注意を促し、一人の人間として尊重した対応を常に心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に合わせて支援し、その人らしい生活スタイルを尊重しながら過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の利用者の状況では共に食事の準備をすることは難しい状況にあるが、下膳等については、利用者に声掛けをしながら職員と一緒にできることをしてもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めて支援しているが、時間等はできるだけ利用者の都合に合わせて行っている。また、菖蒲湯や柚子湯などにして季節感を味わってもらい、入浴を楽しむことができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前からの生活歴や趣味、仕事などを把握し、ホールの清掃や洗濯物たたみ等、本人が楽しいと感じられるものを見出しながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在の利用者の状況では日常的な外出は難しいが、家族の協力を得ながら家族同伴のもと外出の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には安全面に考慮し鍵をかけているが、職員は見守りの方法を徹底し、外出希望がある場合はすぐに付き添うなど利用者の安全に配慮した支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成しており、年1回、消防署の指導のもと、地域住民の協力も得て訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
g)					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表で把握するようにし、健康状態の確認を徹底している。管理栄養士による栄養バランスの管理もよく行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには、季節感あふれる雛人形等が飾られており、また、季節の花も活けてある。暖かい日差しが差し込み、ゆったりとした雰囲気と家庭的な温かさを感じる共用空間となっており、換気や臭気、採光への配慮もなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた馴染みの家具や家族の写真、仏壇などを持ってきてもらっている。身体の状態に応じて部屋のレイアウトを工夫し、本人にとって心地よい居室となるよう支援している。		